

## 第20回修了式 校長式辞

令和8年3月11日（水）

本日、ここに埼玉医科大学総合医療センター病院長 別宮 好文（べっく よしふみ）様、さいたま市民医療センター病院長 塩谷 猛（しおや たけし）様を始め、多くの御来賓の方々の御臨席の下、埼玉県立常盤高等学校第20回修了証書授与式を挙げていただけますことは、私ども職員一同この上のない喜びでございます。ただいま修了証書を授与いたしました修了生の皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんが看護の道を志し、本校に入学してから5年が経とうとしています。今、皆さんの胸の内には、どのような思いが巡っていることでしょうか。皆さんは5年間慣れ親しんだ常盤高校を離れ、それぞれが自分で選んだ道を歩むこととなります。これからも本校で身に付けた力や友情を糧にして、社会を担う人材として、活躍してくれることを確信しています。

改めておめでとうございます。そして、私の長い教員生活で皆さんと出会え同じ時を過ごしたことを誇りに思います。本当にありがとうございます。

新たなスタートに立つ、修了生の皆さんに、2つのことお願いして餞（はなむけ）といたします。

一つ目はいろいろなことに果敢に挑戦し、これからの社会を牽引してほしいということです。

皆さんは21世紀に生まれ、21世紀の中核となる人たちです。人工知能、AI技術の進歩やグローバル化。人口減少など日本はこれまでに経験したことのない時代を迎えます。一方、私たちの生活はより快適で便利なものになるでしょう。しかし、AIの進歩は人間の仕事を奪ってしまうかもしれません。

こうした時代だからこそチャンスがあります。新しいイノベーションが生まれます。これを活かすには学んだことや経験したことを土台にして、自分の可能性を信じて、失敗を恐れず果敢にチャレンジすることです。皆さんはその力を十分に兼ね備えています。期待しています。

二つ目は人と人の絆を大切にして、平和を築く担い手となってほしいということです。

今日、3月11日は15年前に2万2千人以上が犠牲となった東日本大震災

が発生した日です。その後も熊本地震や能登半島地震など、多くの尊い命が奪われました。いまだに避難を余儀なくされている人が大勢います。山林火災や台風、大雪など多くの災害も発生しています。

そして被災した地域では多くの人達がボランティアとして復興の手助けをしています。

世界に目を向ければ、各地で紛争が続いています。多くの死者や避難民を出している地域もあります。人類がこれからも繁栄を続け共存できる豊かな国際社会を築くためには、自分を大切にすると同じくらいに他者を思いやり行動できることが大切です。国境を越えて人と人との絆を築いてください。そして平和を築く担い手となってください。

新しい世界に飛び出す 皆さんの未来に幸（さち）がありますように！  
絶対に幸せになりましょう。  
新しい世界へ行ってらっしゃい！

ここで、御家族の皆様申し上げます。本日は誠にありがとうございます。また、修了式に御臨席いただきありがとうございます。皆様にはこれまで本校の教育活動やPTA・後援会活動に対し、温かい御理解と御支援を賜り、心から感謝申し上げます。そしてここまでお子様を立派に育て上げた皆様に対して、心から敬意を表します。今後は未来の医療を支えていく看護師・医療人として、様々な方面で活躍してくれるものと確信しております。

結びになりますが、修了生の在学中、お力添えをいただきましたすべての関係各位に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、修了生の皆さんのますますの御健勝と御活躍を祈念し、式辞といたします。

令和8年3月11日 埼玉県立常盤高等学校長 鴨志田新一